

WebSAM DeploymentManager Ver6.14

一括 OS 展開の利用ガイド

—第 1 版—

目次

はじめに	3
対象読者と目的	3
本書の構成	3
DeploymentManagerマニュアル体系	4
1. 一括OS展開の概要説明	5
2. 運用までの流れ	7
3. System_AutoDeployシナリオを設定する	9
4. 一括OS展開モードをONにする	10
4.1. マシンのモデル名を確認する	10
4.2. DeploymentManagerサーバの詳細設定を変更する	11
4.3. DeploymentManagerサーバを再起動する	13
5. 一括OS展開	14
5.1. マシンを準備する	14
5.2. マシンのブート順位を変更する	14
5.3. 一括OS展開を実行する	14
5.4. 一括OS展開の完了を確認する	15
5.4.1. マシンの電源状態や画面を確認する方法	15
5.4.2. DPMから出力可能なcsvファイルを確認する方法	16
6. 一括OS展開モードをOFFに戻す	17
6.1. DeploymentManagerサーバの詳細設定を変更する	17
6.2. DeploymentManagerサーバを再起動する	18
7. 注意事項、トラブルシューティング	19
7.1. 一括OS展開の実行中にエラーが発生した場合の対処	19
7.2. 一括OS展開が始まらない	19
7.3. 一括OS展開で頻繁にタイムアウトが発生する	19
7.4. deployment_userユーザのパスワードを変更する場合の注意事項	19
8. 補足	20
8.1. マシンに設定する情報をカスタマイズする	20
8.2. 「シナリオグループ」アイコン	21
8.2.1. 「Built-in Scenarios」シナリオグループ	21
8.2.1.1. System AutoDeploy	22
付録 A 改版履歴	23

はじめに

対象読者と目的

「一括OS展開の利用ガイド」は、WebSAM DeploymentManager(以下、DPM)の一括OS展開機能を利用するユーザを対象に、本機能を利用するにあたっての操作手順を実際の流れに則して説明します。

本書の構成

- ・ 1 「一括OS展開の概要説明」:一括OS展開の概要について説明します。
- ・ 2 「運用までの流れ」:一括OS展開の運用までの流れについて説明します。
- ・ 3 「System_AutoDeployシナリオを設定する」: System_AutoDeployシナリオを設定する手順について説明します。
- ・ 4 「一括OS展開モードをONにする」: 一括OS展開モードをONにする手順について説明します。
- ・ 5 「一括OS展開」: 一括OS展開するための操作について説明します。
- ・ 6 「一括OS展開モードをOFFに戻す」: 一括OS展開モードをOFFに戻す操作について説明します。
- ・ 7 「注意事項、トラブルシューティング」: 一括OS展開に関する注意事項、エラー情報に対する対処方法について説明します。
- ・ 8 「補足」: 一括OS展開に関する補足について説明します。

付録

- ・ 付録 A 改版履歴

DeploymentManager マニュアル体系

DPMのマニュアルは、以下のように構成されています。

また、マニュアル内では、各マニュアルは「マニュアルでの呼び方」の名称で記載します。

マニュアル名	マニュアルでの呼び方	各マニュアルの役割
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 ファーストステップガイド	ファーストステップガイド	DPMを使用するユーザを対象読者とします。 製品概要、各機能の説明、システム設計方法、動作環境などについて説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 インストレーションガイド	インストレーションガイド	DPMの導入を行うシステム管理者を対象読者とします。 DPMのインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールなどについて説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 オペレーションガイド	オペレーションガイド	DPMの運用を行うシステム管理者を対象読者とします。 運用のための環境の設定手順、および運用する際の操作手順を実際の流れに則して説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 リファレンスガイド Webコンソール編	リファレンスガイド Webコンソール編	DPMの操作を行うシステム管理者を対象読者とします。 DPMの画面操作について記載します。「インストレーションガイド」および「オペレーションガイド」を補完する役割を持ちます。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 リファレンスガイド ツール編	リファレンスガイド ツール編	DPMの操作を行うシステム管理者を対象読者とします。 DPMのツールの説明について記載します。「インストレーションガイド」および「オペレーションガイド」を補完する役割を持ちます。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編	リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編	DPMの操作を行うシステム管理者を対象読者とします。 DPMのメンテナンス関連情報、およびトラブルシューティングについて記載します。「インストレーションガイド」および「オペレーションガイド」を補完する役割を持ちます。
WebSAM DeploymentManager 一括ファイル配置ガイド	一括ファイル配置ガイド	DPMの一括ファイル配置機能を利用するユーザを対象読者とします。一括ファイル配置機能に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド	Windows PE版 Deploy-OSの利用ガイド	DPMのWindows PE版Deploy-OSを利用するユーザを対象読者とします。Windows PE版Deploy-OSを利用するにあたっての操作手順を実際の流れに則して説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.14 一括OS展開の利用ガイド	一括OS展開の利用ガイド	DPMの一括OS展開機能を利用するユーザを対象読者とします。一括OS展開機能を利用するにあたっての操作手順を実際の流れに則して説明します。

- ・ DPMに関する最新情報は、以下の製品 Web サイトから入手できます。
<https://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>
- ・ 上記マニュアルはインストール媒体には含まれていません。製品 Web サイトで公開しています。

1. 一括 OS 展開の概要説明

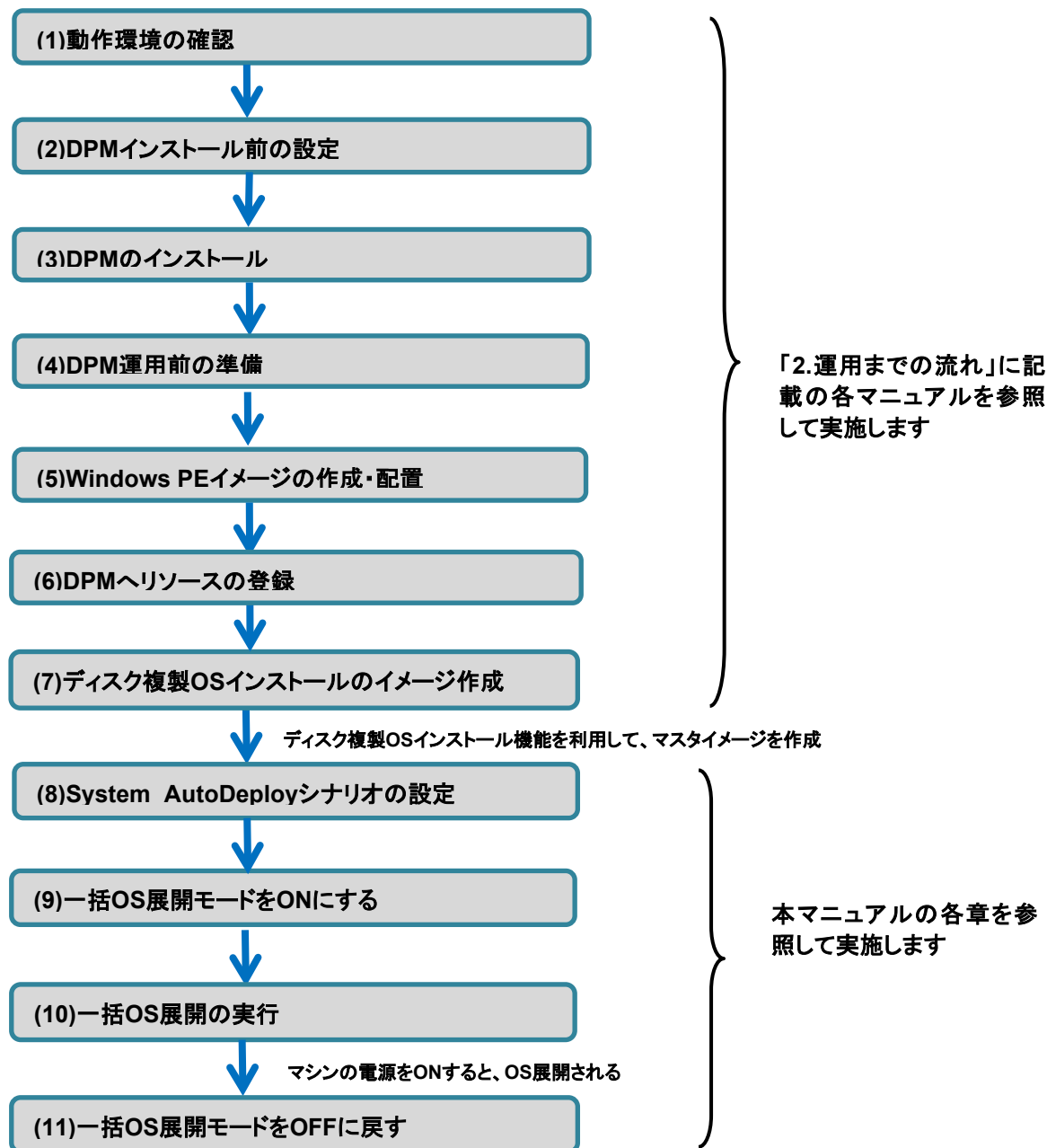
本章では、一括 OS 展開の概要について説明します。

DPM Ver6.12以降で、Windows PEを使用して、一括OS展開機能を利用することができるようになりました。

一括OS展開機能を利用すると、キッティングにおける操作が電源操作のみになるため、キッティング作業のコストを大幅に削減できます。

- ・ 作業がシンプルになるため、ミスによる作業の手戻りが少なくなります。
- ・ 1台あたりの作業時間が減り、大量のマシンのキッティングを効率よく短期間で実施できます。

一括OS展開では、前準備として、Windows PEを使用したディスク複製OSインストール機能を利用して、マスタイメージを作成します(下記の図の(1)~(7)を実施します。「2. 運用までの流れ」に記載の各マニュアルを参照)。
そのあと、System_AutoDeployシナリオの設定後、Webコンソールで一括OS展開モードをONに設定し、マシンを電源ONすると、自動でOS展開されます(下記の図の(8)~(11)を実施します。本マニュアルの各章を参照)。
詳細は、「2. 運用までの流れ」を参照してください。



注:

- 一括OS展開を使用する場合は、事前にWindows PEイメージを作成・配置し、ディスク複製OSインストール機能を利用して、マスタイメージを作成する必要があります。詳細は、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド」を参照してください。
- 本機能を利用できるマシンの機種、および本機能を利用して展開できるOSについては、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 1.2. Windows PE版Deploy-OSを利用できる機種」を参照してください。ただし、本機能は、仮想マシンをサポートしていません。

2. 運用までの流れ

本章では、一括 OS 展開を運用するまでに必要な作業の流れを説明します。
本マニュアル、および各マニュアルを読み進めながら、システムを構築してください。

- (1) 動作環境を確認します。
システム構成を決定した後、DPMの動作環境がご利用の環境に適しているかを確認します。
詳細は、「ファーストステップガイド 3. 動作環境」を参照してください。
- (2) DPMのインストールの前に必要な設定をします。
DPMのインストールの前に、DPMの動作に必要なモジュールのインストールや設定をします。
詳細は、「インストレーションガイド 1. インストールを始める前に」を参照してください。
- (3) DPMをインストールします。
システム設計で決定した構成に従い、DPMのインストールを実行します。
詳細は、DPMサーバのインストールについては、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 3. DPMサーバのインストールを実行する」を参照してください。
DPMサーバ以外のコンポーネントのインストールについては、「インストレーションガイド 2. インストールを実行する」を参照してください。
- (4) DPM運用前の準備を行います。
Webコンソールを起動し、ライセンスキーを登録します。
詳細は、「インストレーションガイド 5. DeploymentManager運用前の準備を行う」を参照してください。
- (5) Windows PEイメージを作成します。
一括OS展開を利用するための事前作業として、Windows PEイメージを作成・配置します。
Windows PEイメージの作成方法については、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 4.1. Windows PEイメージ作成」を参照してください。
- (6) DPMヘリソースの登録をします。
マスタとなるマシンを管理対象マシンとして登録します。
登録方法については、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 4.2. DeploymentManagerヘリソースを登録する」を参照してください。
- (7) ディスク複製OSインストールのイメージを作成します。
ディスク複製OSインストール(Windows)のイメージを作成します。
「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 4.5. ディスク複製OS インストール(Windows)」の「4.5.1. マスタイメージを作成する」から「4.5.2. マスタマシンを復旧する」を参照してください。
一括OS展開を利用する場合、マスタマシンにDPMクライアントのインストールは不要です。
- (8) System_AutoDeployシナリオを設定します。
「Built-in Scenarios」シナリオグループのSystem_AutoDeployをシナリオコピーし、コピーしたシナリオにイメージファイルとディスク情報を設定します。
「3. System_AutoDeployシナリオを設定する」を参照してください。
- (9) 一括OS展開モードをONにします。
一括OS展開を実施するマシンのモデル名を確認し、Webコンソールで一括OS展開モードをONに設定します。
詳細は、「4. 一括OS展開モードをONにする」を参照してください。
- (10) 一括OS展開を実行します。
一括OS展開を実施するマシンを準備し、マシンの電源をONすることで、OS展開が実行されます。
詳細は、「5. 一括OS展開」を参照してください。

- (11) 一括OS展開モードをOFFに戻します。
一括OS展開が完了したあと、一括OS展開モードをOFFに戻します。
詳細は、「6. 一括OS展開モードをOFFに戻す」を参照してください。

3. System_AutoDeploy シナリオを設定する

本章では、System_AutoDeployシナリオを設定する手順について説明します。

「Built-in Scenarios」シナリオグループのSystem_AutoDeployをシナリオコピーし、コピーしたシナリオにイメージファイルとディスク情報を設定します。

「8.2.1.「Built-in Scenarios」シナリオグループ」、「8.2.1.1.Sytem AutoDeploy」、および「リファレンスガイド Webコンソール編 3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」を参照してください。

4. 一括 OS 展開モードを ON にする

本章では、一括 OS 展開モードを ON にする手順について説明します。

注:

一括OS展開を利用する場合にのみ、一括OS展開モードをONにしてください。

一括OS展開の利用が終わったあとは、必ず一括OS展開モードをOFFに戻してください。OFFに戻す手順については、「6. 一括OS展開モードをOFFに戻す」を参照してください。

一括OS展開を利用しないにも関わらず一括OS展開モードがONに設定されている場合、ネットワークに接続されたマシンに対して、誤って一括OS展開用のシナリオが実行される可能性があります。

4.1. マシンのモデル名を確認する

一括OS展開をONにする前に、OSを展開する対象マシンのモデル名を確認します。

一括OS展開では、DPMがOSを展開する前に対象マシンのモデル名を確認し、モデル名のパターンが一致しない場合はOS展開を中止します。これにより、意図しないマシンへのOS展開を防ぐことができます。

モデル名を確認するには、製品本体に貼ってあるシール(装置銘板)で「型番」を確認してください。詳細は以下を参照してください。
NEC LAVIE公式サイト「型番・製造番号の確認方法」

<https://support.nec-lavie.jp/navigate/support/download/help/Modelconfirm.html>

そのあと、確認したモデル名をWebコンソール上に設定します。対象マシンのモデル名の設定方法については、「4.2. DeploymentManagerサーバの詳細設定を変更する」を参照してください。

4.2. DeploymentManager サーバの詳細設定を変更する

DeploymentManagerサーバの詳細設定を変更して、一括OS展開モードをONにします。

- (1) Webコンソールに、Administrator権限を持つユーザでログインします。
- (2) タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (3) ツリービュー上で、「DPMサーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPMサーバ」をクリックします。
- (4) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「詳細設定」をクリックします。
- (5) 「全般」タブを選択し、「サーバ設定」グループボックスにて、「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」にチェックを入れます。
- (6) 「一括OS展開」タブをクリックして、「一括OS展開を使用する」を選択し、一括OS展開に必要な項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

管理 > DPMサーバ > 詳細設定

管理 > DPMサーバ > 詳細設定

全般 シナリオ ネットワーク DHCPサーバ **一括OS展開**

設定を変更した場合は、DPMサーバを再起動してください。

一括OS展開を使用する

同時実行可能台数 台

展開待ちタイムアウト 分

展開用グループ名

Deploy-OS ID

Deploy-OS

シナリオ名

OS種別

OSパスワード

対象モデル名

**⚠ シナリオ実行中のマシンがある場合、すべてのシナリオが完了するまでお待ちください。
DPMサーバ再起動後から、新規発見したマシンをすべて自動的にグループに登録して、シナリオを配信します。**

一括OS展開を使用しない

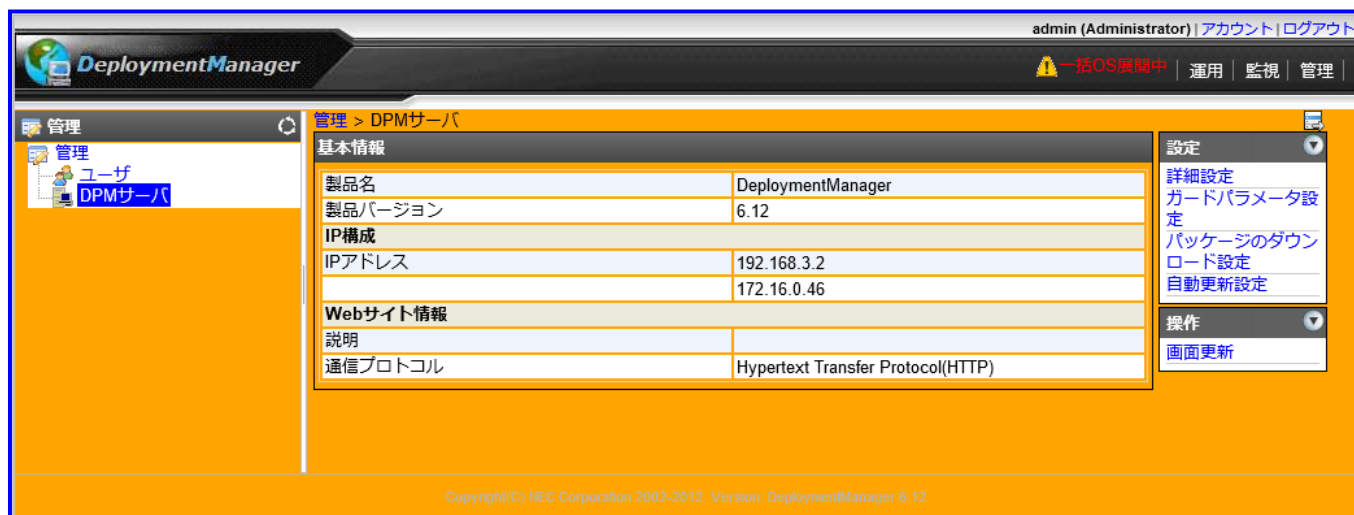
新規発見したマシンをすべて新規マシングループに登録します。

OK キャンセル

一括OS展開	
一括OS展開を使用する	一括OS展開を使用する場合に選択します。(※1)
同時実行可能台数 (入力必須)	OS展開用のシナリオを同時に実行する台数の上限値を設定します。 「1～1000」台まで設定できます。デフォルトは、「5」台です。(※2)
展開待ちタイムアウト (入力必須)	リストア終了後から個性情報が反映されるまでのタイムアウト時間です。(※3) 設定した時間を過ぎても個性情報の反映が終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。(※4) 「1～1440」分までの1分単位で設定できます。デフォルトは、「60」分です。
展開用グループ名 (入力必須)	新規マシンが登録されるグループ名を入力します。 入力できる文字数は、64Byte以内です。 使用できる文字は、半角英数字/半角記号/全角文字です。 ただし、次の半角記号は使用できません。 /;
Deploy-OS ID	Deploy-OSのIDを表示します。変更することはできません。
Deploy-OS	Deploy-OS名を表示します。変更することはできません。
シナリオ名 (入力必須)	OS展開用のシナリオ名を入力します。 デフォルトは、「System_AutoDeploy」です。 System_AutoDeployをシナリオコピーして編集した場合は、コピーしたシナリオ名を入力してください。
OS種別	展開するOSの種別を選択します。
OSパスワード (入力必須)	OSのAdministratorユーザに設定するパスワードを入力します。
対象モデル名	OSを展開するマシンのモデル名を入力します。 入力されたモデル名に該当するマシンが電源ONされると、自動的に展開用グループに追加され、一括OS展開用のシナリオが実行されます。 対象にするモデル名が複数ある場合は、改行して入力してください。 この記載には、「*」「?」のワイルドカードが使用できます。(※5) デフォルトは「*」になっており、すべてのマシンが一括OS展開の対象となっています。
一括OS展開を使用しない	一括OS展開を使用しない場合に選択します。(※1)
OK	「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

- ※1 一括OS展開の使用を有効化/無効化するためには、DPMサーバの再起動または下記サービスの再起動が必要です。
- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
 - ・ DeploymentManager PXE Management
- ※2 同時実行可能台数に達している状態で新たなマシンを起動した場合は、シナリオ実行中のマシン台数が同時実行可能台数を下回るまで、再起動を行い待ち合せます。ただし、マシンの起動タイミングによっては同時実行可能台数を超過してシナリオが実行される可能性があります。
- 同時実行台数の最大値は1000台となっていますが、同時実行するシナリオ数が増えるとネットワークの負荷が高くなります。ネットワーク負荷が高くなることで、シナリオ実行に必要なデータの転送速度が遅くなったり、展開待ちタイムアウトが発生しやすくなったりすることがあります。改善方法は、「7.3. 一括OS展開で頻繁にタイムアウトが発生する」を参照してください。
- ※3 一括OS展開用のシナリオが実行されると、対象マシンにマスタイメージがリストアされ、そのあと個性情報が反映されます。
- ※4 展開待ちタイムアウトで設定した時間を超えると、タイムアウトが発生しシナリオ実行エラーとなります。
エラーになった場合の対処方法は、「7.1. 一括OS展開の実行中にエラーが発生した場合の対処」を参照してください。
- ※5 ワイルドカード使用例は、以下のような例があります。
- PC-*
- PC-VKL??XZG9

- (7) 「OK」をクリックします。画面の背景色が変更され、メインメニューの左側に「一括OS展開中」が表示されます。
- ※ DPMサーバの再起動、または下記サービスを再起動するまでは、一括OS展開は有効化されていません。
- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
 - ・ DeploymentManager PXE Management



4.3. DeploymentManager サーバを再起動する

- DPMサーバを再起動して、一括OS展開を有効化します。
- また、下記サービスの再起動でも、一括OS展開を有効化することができます。
- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
 - ・ DeploymentManager PXE Management

5. 一括 OS 展開

本章では、一括OS展開するための操作について説明します。

5.1. マシンを準備する

一括OS展開を実施するマシンを準備します。
マシンに、ACアダプターとLANケーブルを接続してください。
デスクトップPCの場合は、ディスプレイとキーボードも接続してください。

5.2. マシンのブート順位を変更する

マシンのUEFI/BIOS画面を起動させ、ブート順位を変更します。
ネットワークアダプタが、ブート順位の先頭になるように設定してください。

5.3. 一括 OS 展開を実行する

マシンの電源ボタンを押して、電源を入れてください。
自動で、DPMIによる一括OS展開が実行されます。
一括OS展開が実行されると、下記の画面が表示されますが何も操作せずにお待ちください。

A screenshot of a black terminal window with white text. The text reads: "This computer will be rebooted to reschedule the Operating System deployment. Press F8 to view menu. (16) _".

```
This computer will be rebooted to reschedule the Operating System deployment.  
Press F8 to view menu. (16) _
```

注:
一括OS展開中に、マシンが何度か再起動されます。

5.4. 一括 OS 展開の完了を確認する

一括OS展開が完了していることを確認します。

確認する方法として、下記の方法があります。

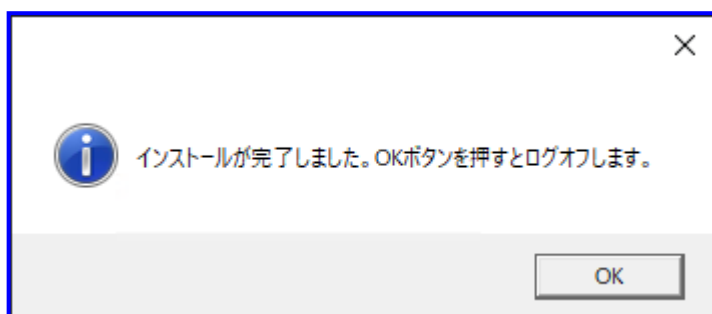
- ・ マシンの電源状態や画面を確認する方法
- ・ DPMから出力可能なcsvファイルを確認する方法

5.4.1. マシンの電源状態や画面を確認する方法

マシンの電源状態や画面から確認します。

マスタマシンのセットアップ時に実行したスクリプトによって、確認方法が異なります。

- ・ Copy-ExpressSysprep-NonClient-S.vbs を実行している場合
対象マシンの電源がOFFになっていることを確認してください。
- ・ Copy-ExpressSysprep-NonClient.vbs を実行している場合
対象マシンの画面を確認して、下記のダイアログが表示されていることを確認してください。



画面の表示を確認後、「OK」をクリックしてください。ログオフが実行されログイン画面が表示されますが、ログインせずにシャットダウンしてください。

注:

- ダイアログが、スタートメニューや別のウィンドウによって隠れてしまう場合があります。
その場合は、タスクバーに下記の赤枠で囲ったアイコンが表示されていないかを確認してください。



アイコンが表示されている場合は、アイコンをクリックしてダイアログが表示されることを確認してください。

- 必ず「OK」をクリックしてください。「OK」をクリックせずにマシンをシャットダウンした場合、OS展開中にマシンに作成されたテンポラリファイルが削除されません。
-

5.4.2. DPM から出力可能な csv ファイルを確認する方法

DPMから、一括OS展開中のマシンの状態を確認することができます。

以下の手順に沿って、マシン情報出力を実行してください。

csvファイルが出力されますので、ファイル内の「シナリオ実行状況」を確認してください。「実行完了」と記載されているマシンは、OS展開が正常に完了しています。

出力される内容については、「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 4.6.1. マシン情報出力で出力されるファイルの情報」を参照してください。

- (1) Webコンソールに、Administrator権限を持つユーザでログインします。
- (2) タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (3) ツリービュー上で、展開用グループ(デフォルトでは、AutoOSDeployment)のアイコンをクリックします。
- (4) 展開用グループに対する「操作」メニューが表示されますので、「マシン情報出力」をクリックします。
- (5) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

注:

「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、以下の方法でブラウザのセキュリティの設定を確認してください。

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット」→「インターネットオプション」を選択し、「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」の「このゾーンのセキュリティレベル」の「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、以下の設定にしてください。

- ・ 「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード」を「有効にする」に設定する。
-

6. 一括 OS 展開モードを OFF に戻す

本章では、一括OS展開モードをOFFに戻す機能について説明します。

6.1. DeploymentManager サーバの詳細設定を変更する

DeploymentManagerサーバの詳細設定を変更して、一括OS展開モードをOFFにします。

- (1) Webコンソールに、Administrator権限を持つユーザでログインします。
- (2) タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (3) ツリービュー上で、「DPMサーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPMサーバ」をクリックします。
- (4) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「詳細設定」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに以下の画面が表示されますので、「一括OS展開」タブをクリックして、「一括OS展開を使用しない」を選択してください。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

一括OS展開中 | 運用 | 監視 | 管理

管理 > DPMサーバ > 詳細設定

詳細設定

全般 | シナリオ | ネットワーク | DHCPサーバ | 一括OS展開

設定を変更した場合は、DPMサーバを再起動してください。

一括OS展開を使用する

同時実行可能台数 台

展開待ちタイムアウト 分

展開用グループ名

Deploy-OS ID

Deploy-OS

シナリオ名

OS種別

OSパスワード

対象モデル名

! シナリオ実行中のマシンがある場合、すべてのシナリオが完了するまでお待ちください。
DPMサーバ再起動後から、新規発見したマシンをすべて自動的にグループに登録して、シナリオを配信します。

一括OS展開を使用しない

新規発見したマシンをすべて新規マシングループに登録します。

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2012. Version: DeploymentManager 6.12

一括OS展開	
一括OS展開を使用する	一括OS展開を使用する場合に選択します。(※1)
一括OS展開を使用しない	一括OS展開を使用しない場合に選択します。(※1)
OK	「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

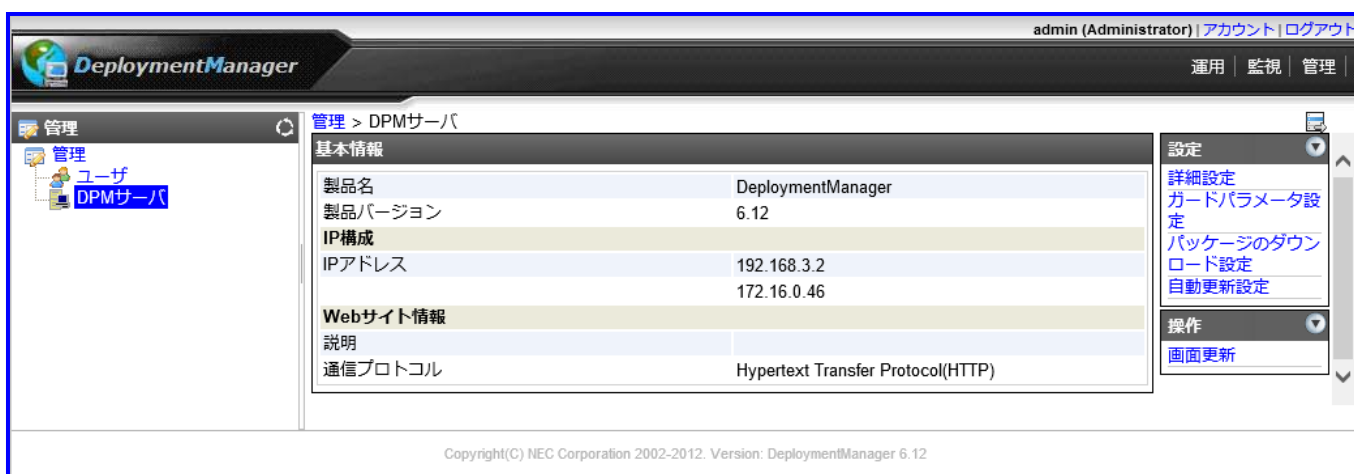
※1 一括OS展開の使用を有効化/無効化するためには、DPMサーバの再起動または下記サービスの再起動が必要です。

- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ・ DeploymentManager PXE Management

(6) 「OK」をクリックします。画面の背景色が変更され、メインメニューの左側に「一括OS展開中」が表示されなくなります。

※ DPMサーバの再起動、または下記サービスを再起動するまでは、一括OS展開は無効化されていません。

- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ・ DeploymentManager PXE Management



6.2. DeploymentManager サーバを再起動する

DPMサーバを再起動して、一括OS展開を無効化します。

また、下記サービスの再起動でも、一括OS展開を無効化することができます。

- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ・ DeploymentManager PXE Management

7. 注意事項、トラブルシューティング

本章では、一括OS展開に関する各種注意事項、エラー情報に対する対処方法を説明します。
「Windows PE版Deploy-OSの利用ガイド 6.注意事項、トラブルシューティング」に留意の上で、本章をご確認ください。

7.1. 一括 OS 展開の実行中にエラーが発生した場合の対処

OS展開に失敗した管理対象マシンについては、対象のマシンを再起動することで、OS展開を再試行することができます。
一括OS展開の実行中に管理対象マシンの画面にエラーが表示されている場合、またはOS展開に想定外の時間がかかっている場合は、対象のマシンの再起動を試してください。

マシンの再起動後、マシンの画面に「5.3. 一括OS展開を実行する」で記載されているメッセージが表示されますので、そのあと「5.4. 一括OS展開の完了を確認する」を参照して、OS展開が成功していることを確認してください。

注:

マシンを再起動してもOS展開が実行されない場合は、以下を確認してください。

- ・ DPMに、対象のマシンの状態がシナリオ実行エラーとして認識されているかを確認してください。シナリオ実行エラーの確認方法については、「リファレンスガイド Web コンソール編 3.7.1. マシンのステータス」を参照してください。
 - ・ マシンのUEFI/BIOS画面を起動させ、ネットワークアダプタがブート順位の先頭になっているか確認してください。
-

7.2. 一括 OS 展開が始まらない

マシンを電源ONしても一括OS展開が始まらない場合は、下記をご確認ください。

- ・ DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブで、「一括OS展開を使用する」がONになっていること。
- ・ DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブを変更した後に、下記のサービスを再起動していること。
 - DeploymentManager Backup/Restore Management
 - DeploymentManager PXE Management
- ・ DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブで設定しているシナリオ名をデフォルトから変更している場合は、変更後のシナリオ名のシナリオがDPMサーバに登録されていること。
- ・ マシンのモデル名が、DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブで設定したモデル名に該当すること。

7.3. 一括 OS 展開で頻繁にタイムアウトが発生する

ネットワーク負荷が高くなり、シナリオ実行に必要なデータの転送速度が遅くなっていることが考えられます。

DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブの以下の設定を見直すことで、改善する場合があります。

- ・ 「同時実行可能台数」: 台数の設定を少なくすることで、ネットワークの負荷を低く抑えることができます。
- ・ 「展開待ちタイムアウト」: タイムアウト時間を長くすることで、タイムアウトの発生頻度を抑えることができます。

7.4. deployment_user ユーザのパスワードを変更する場合の注意事項

deployment_userユーザのパスワードを変更した場合、DPMサーバの「詳細設定」-「一括OS展開」タブを再設定してください。
「一括OS展開」タブの再設定後に、DPMサーバの再起動、または下記サービスを再起動してください。

- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
 - ・ DeploymentManager PXE Management
-

注:

- deployment_userユーザについては、「リファレンスガイド Webコンソール編 2.2. 「ユーザ」アイコン」を参照してください。
-

8. 補足

本章では、一括OS展開に関する補足について説明します。

8.1. マシンに設定する情報をカスタマイズする

一括OS展開後のマシンに設定する情報を、カスタマイズする方法について説明します。

一括OS展開後のマシンに設定する情報をカスタマイズするには、セットアップパラメータファイルを編集するためのスクリプトを作成し、バッチファイル(exec_snr_custom.bat)でスクリプトを実行するようにします。

※バッチファイル(exec_snr_custom.bat)は、一括OS展開中に自動で実行されます。

以下の手順では、一括OS展開後のマシン名をカスタマイズする方法を例に説明します。

- (1) バッチファイル(exec_snr_custom.bat)を編集し、手順(2)で作成するスクリプトを実行するように定義します。
バッチファイル(exec_snr_custom.bat)は、DPMサーバのインストールフォルダにインストールされています。
(DPMサーバのインストールフォルダのデフォルトは、C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager)

```
SETLOCAL

SET MAC_ADDR=%1
SET MACHINE_XML=%2

★ここより下に処理を記載する。

powershell -File ChangePcName.ps1 -Path %MACHINE_XML% -Mac %MAC_ADDR%

★ここより上に処理を記載する。

ENDLOCAL
EXIT /B 0
```

バッチファイル(exec_snr_custom.bat)は、以下の2つの引数を受け取ります。

- 対象マシンのMACアドレス
MAC_ADDRに代入されます。
- 対象マシンのセットアップパラメータファイル名
MACHINE_XMLに代入されます。

- (2) セットアップパラメータファイルを編集するためのスクリプト(以下の例の場合は、ChangePcName.ps1)を作成し、DPMサーバのインストールフォルダに格納します。
セットアップパラメータファイルの雛形(unattended.xml)は、DPMサーバのインストールフォルダにインストールされています。

例) マシン名を「PC + MACアドレスの下9桁」にするPowerShellスクリプト(ChangePcName.ps1)

```
Param( $Path, $Mac )
$xml]$x = Get-Content $Path
$settings = $x.unattend.settings[2]
$settings.component.ComputerName = "PC" + $Mac.Substring(8)

$x.save($Path)
```

8.2. 「シナリオグループ」アイコン

Webコンソールの「シナリオグループ」アイコンでは、シナリオをシナリオグループごとに分類、管理します。

「シナリオグループ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンからアクセスできます。

「シナリオグループ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。

シナリオグループの画面については、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.12 シナリオグループ詳細」を参照してください。

注:

- DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合、アップグレードインストール前に作成したシナリオは「Existing Scenarios」シナリオグループに格納されます。
-

8.2.1. 「Built-in Scenarios」シナリオグループ

DPMサーバをインストールすると、「Built-in Scenarios」シナリオグループが作成され、配下に以下のシナリオが用意されています。

- System_AgentUpgrade_Multicast
- System_AutoDeploy
- System_Backup
- System_DiskProbe
- System_GetHardwareInfo
- System_LinuxAgentUpgrade_Multicast
- System_LinuxChgBootOrder
- System_LinuxChgHostName
- System_LinuxChgIP
- System_LinuxChgPassword
- System_LinuxMasterSetup
- System_Restore_Unicast
- System_WindowsChgBootOrder
- System_WindowsChgHostName
- System_WindowsChgIP
- System_WindowsChgPassword
- System_WindowsMasterSetup
- System_WindowsMasterSetupVM

注:

- System_GetHardwareInfo, System_LinuxMasterSetup, System_WindowsMasterSetup, System_WindowsMasterSetupVM以外のシナリオは、編集、コピー、削除ができます。
 - System_AutoDeployは、一括OS展開専用のシナリオです。
 - 「Built-in Scenarios」シナリオグループのシナリオを編集する場合は、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.12.7 シナリオコピー」を参照して、シナリオをコピーした後、コピーしたシナリオを編集することを推奨します。
 - シナリオを編集する際は、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.14.1 シナリオ編集」を参照してください。
 - シナリオを削除する際は、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.12.8 シナリオ削除」を参照してください。
-

8.2.1.1. Sytem AutoDeploy

一括OS展開で使用するシナリオです。

System_AutoDeployをシナリオコピーして、コピーしたシナリオを編集してください。

イメージファイル、ディスク情報を必ず設定してください。

ディスク情報の詳細については、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」の「**■**ディスク情報の設定について」の「2. リストアシナリオ」を参照してください。

本シナリオの初期設定は、以下のとおりです。

各項目については、「リファレンスガイド Webコンソール編 3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ」と「リファレンスガイド Webコンソール編 3.13.5. 「オプション」タブ」を参照してください。

バックアップ/リストア	
バックアップ/リストアを実行する	ON
(ラジオボタン)	リストア
イメージファイル	C:¥DeployBackup¥AutoDeploy.lbr
マシン名	OFF
MACアドレス	OFF
UUID	OFF
備考	空白
バックアップ/リストア対象	
隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)	ON
ディスク情報	<ul style="list-style-type: none">・ ディスク番号(元):0・ パーティション番号(元):0・ ディスク番号(先):1・ パーティション番号(先):0
配信条件設定	ユニキャストでデータを送信する

オプション	
シナリオ実行動作設定	
シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	ON
シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	OFF

付録 A 改版履歴

◆ 第 1 版(Rev.001) 2024.04:新規作成

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
本書に記載の URL、および URL に掲載されている内容は、参照時には変更されている可能性があります。
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標および著作権

- SigmaSystemCenter、WebSAM、Netvisor、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、SIGMABLADE は日本電気株式会社の登録商標です。
 - 本書に記載されているその他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。
- 商標および著作権の詳細は「ファーストステップガイド 商標および著作権」を参照してください。